



東京マラソン 2018 チャリティ チャリティランナーの定員を 4,000 人に拡充

2011 大会から導入したチャリティ制度について、チャリティランナーの申込みは 2016、2017 大会と続けて定員 3,000 人に達し、3 億円以上の寄付金を集めています。

そして、次回の東京マラソン 2018〔平成 30 年 2 月 25 日（日）開催予定〕から、チャリティランナーの定員を 3,000 人から 4,000 人に拡充して募集を行います。

また、アボット・ワールドマラソンメジャーズの一大会としてふさわしい、チャリティイベント（社会貢献の場）としての更なる成長に向けた仕組みを試行的に導入します。

つきましては、以下のようにお知らせします。

東京マラソン 2018 チャリティ概要

- 東京マラソン 2018 からチャリティランナーの定員を 4,000 人に拡充（前回大会 3,000 人）
- チャリティ団体向け試行的な仕組み（名称：アクティブチャリティ）
 - 定員 4,000 人のうち 100 人分を上限に、希望するチャリティ団体が事前に出走権を確保
 - チャリティ団体は、独自のプロモーションによって寄付の呼びかけを実施
- チャリティランナー申込み期間の変更
 - 平成 29 年 7 月 1 日から 7 月 31 日まで 3,900 人
 - 平成 29 年 7 月 1 日から 8 月 31 日まで 100 人（アクティブチャリティ）
- 今後の予定
 - 6 月 下旬 大会要項承認
 - 7 月 1 日 寄付金およびチャリティランナー申込み受付開始
 - 7 月 31 日 チャリティランナー申込み受付終了
 - 8 月 31 日 アクティブチャリティ申込み終了

※寄付金については、平成 30 年 3 月 31 日まで受付を行う

参考：寄付金・チャリティランナー申込み人数の実績について

平成 29 年 3 月 10 日時点

	2011大会	2012大会	2013大会	2014大会	2015大会	2016大会	2017大会
チャリティランナー	707人	1,743人	2,215人	2,593人	2,930人	3,000人	3,000人
定員	1,000人	3,000人					
寄付金額	73,253,580円	181,973,159円	225,546,156円	265,799,815円	303,917,339円	314,711,592円	312,276,768円

東京マラソン 2018 寄付先団体（予定）

○一般財団法人東京マラソン財団 スポーツレガシー事業

スポーツの夢（強化育成）・スポーツの礎（環境整備）・スポーツの広がり（普及啓発）・スポーツの力（社会貢献）の4つのテーマに基づき、スポーツを軸とした新しいライフスタイルを享受できる社会の実現を目指します。

○認定特定非営利活動法人カタリバ

生まれ育った環境によって意欲・能力を高める機会が左右されてしまわないように、10代に対する学びや対話を通じたキャリア学習機会を届けています。どんな環境に生まれ育ったとしても「未来は創り出せる」と子ども達が信じられる社会を目指し、活動をしています。

○特定非営利活動法人国連 UNHCR 協会

1950年に設立された国連の難民支援機関です。紛争や迫害により故郷を追われた難民・避難民を国際的に保護・支援し、難民問題の解決に対して働きかけています。スイス・ジュネーブに本部を置き、約125か国で援助活動を実施。この活動を支えるために広報・募金活動を行う公式支援窓口です。

○認定特定非営利活動法人育て上げネット

すべての若者が社会的所属を獲得し、「働く」と「働き続ける」を実現できる社会を目指し、若者と社会をつなぐサポートを行っています。若者当事者や保護者を支援するだけでなく、支援現場を可視化・体系化し支援者を育成すること、地域社会・行政・企業など若者を支援する担い手を増やすことなど、多岐にわたる活動に取り組んでいます。

○公益財団法人スペシャルオリンピックス日本

知的障害のある人たちに年間を通じて様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を提供し社会参加を応援する国際的なスポーツ組織です。オリンピックと同様に4年毎に夏季・冬季の世界大会を開催しています。現在、世界170以上の国と地域で活動が行われています。

○公益財団法人そらぶちキッズキャンプ

難病とたたかう子どもたちと家族を無料で、医療ケア付自然体験施設（キャンプ場）に招待し、病気や障がいのことを気にせず、北海道の豊かな自然の中で、思いきり遊んでもらいたいと考えています。非日常のキャンプ場で、かけがえのない時間を過ごすことが、闘病中の子どもたちや家族の「休息」になり、「明日を生きるエネルギー」になることを望んでいます。

○認定特定非営利活動法人 Teach For Japan

子どもの貧困問題、教育格差の是正を目指しています。厳しい環境に置かれている子ども達が多い学校に、さまざまな経験と教育への問題意識、情熱や成長意欲を兼ね備えた方を独自に選抜し、赴任までに研修を行った上教師として派遣します。派遣した教師は子ども達の学力と学習意欲の向上、学習習慣の定着などを目指しています。

○公益財団法人東京都スポーツ文化事業団

東京体育館、駒沢オリンピック公園総合運動場、東京武道館など、スポーツ活動を行う「場」を管理運営しています。年齢や障害の有無に関わらず、誰もが生涯を通じてスポーツに親しみ、スポーツを楽しむことができるよう、みなさんのライフステージにあった様々な事業を展開していきます。

○公益財団法人東京都農林水産振興財団

東京都内において、農林水産業の担い手となる後継者の確保育成や農林水産業の振興、森林の保全整備、緑化推進事業等を行い、都市と調和する農林水産業の振興、うるおいと活力ある都民生活の向上、感性豊かな次世代の育成に寄与することを目的に設立された公益財団です。

○公益財団法人東京防災救急協会

今この瞬間、大きな地震に襲われたら、目の前で大切な人が倒れたら、何を考え、何ができるか。防災館における地震・消火体験や、心肺蘇生やケガに対する応急処置を学ぶことができる救命講習などを通じて、災害時に必要となる知識と技術を1人でも多くの方へ広めることで、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指しています。

○公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン

病気の子どもとその家族の為に滞在施設『ドナルド・マクドナルド・ハウス』の設置・運営を行う公益財団法人です。ハウスは、『我が家のようにくつろげる第2の家』という理念のもと、ご家族が出来るだけ病気のお子さんのそばで看病できるように地域のボランティアと共に活動を行い、病気と闘う患者家族を心身共に支えています。

○公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

我が国の障がい者スポーツの普及振興を図る統括組織として設立され、以来50年を迎えました。近年、障がい者スポーツをめぐる環境は大きく変化し、これまでの歴史や直面する課題等を踏まえ、障がい者スポーツの更なる発展を目指して、「日本の障がい者スポーツの将来像（ビジョン）」を公表し、アクションプランによりその推進を進めています。障がいのある人のスポーツ環境を整え、日本の障がい者スポーツの発展、ひいては活力ある共生社会の創造を実現していけるよう、新たな決意を持って取り組んでいます。

○認定特定非営利活動法人ファミリーハウス

ファミリーハウスは日本で最初に重い病気の子どもと家族のための滞在施設を建設した団体です。26年前、国立がんセンター中央病院小児病棟（当時）の母親と医師、看護師が協力して始めたこの活動は、全国70の運営団体125のハウスを数えるまでに広がりました。現在、ファミリーハウスは都内で12施設58部屋を運営しています。

○公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

プラン・インターナショナルは、アジア・アフリカ・中南米の途上国51カ国で、子どもとともに地域開発を進める国際NGO。教育や保健など様々な分野で、貧困地域に暮らす子どもたちの生活改善のために、様々なプロジェクトを実施しています。現在、日本で約6万人の方が支援に参加しています。

○東日本大震災復興支援事業

東日本大震災にて肉親を失った親を亡くした子どもたちが今後も健やかに成長できるよう、安定した学びの機会や夢・希望をもって欲しいとの願いを込めて暖かい支援をおくり被災地3県の子どもの支えとなります。

【寄付分配先】

被災地3県支援活動団体の「いわての学び希望基金」「東日本大震災みやぎこども育英募金」「東日本大震災ふくしまこども育英募金」へ直接分配